

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 74人

② 算数 74人

5 留意事項

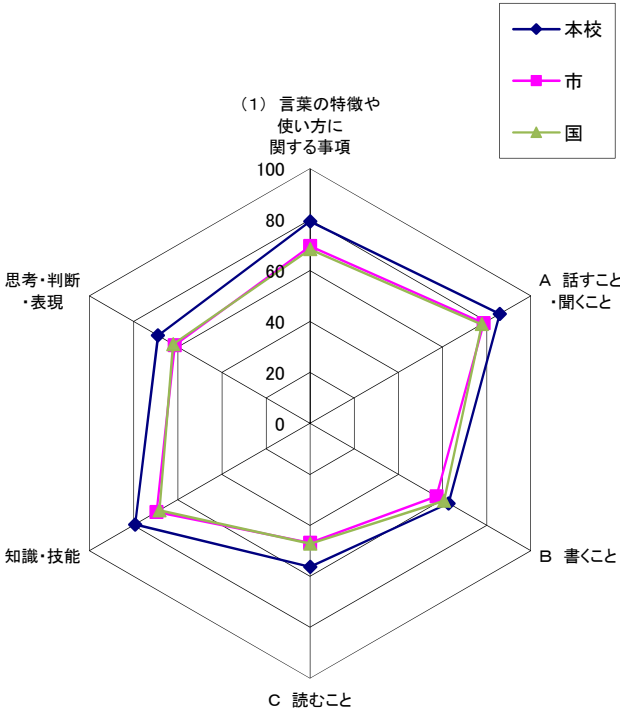
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	79.3	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	85.9	78.7	77.8
	B 書くこと	62.7	57.3	60.7
	C 読むこと	56.3	46.9	47.2
観点	知識・技能	79.3	69.6	68.3
	思考・判断・表現	69.0	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

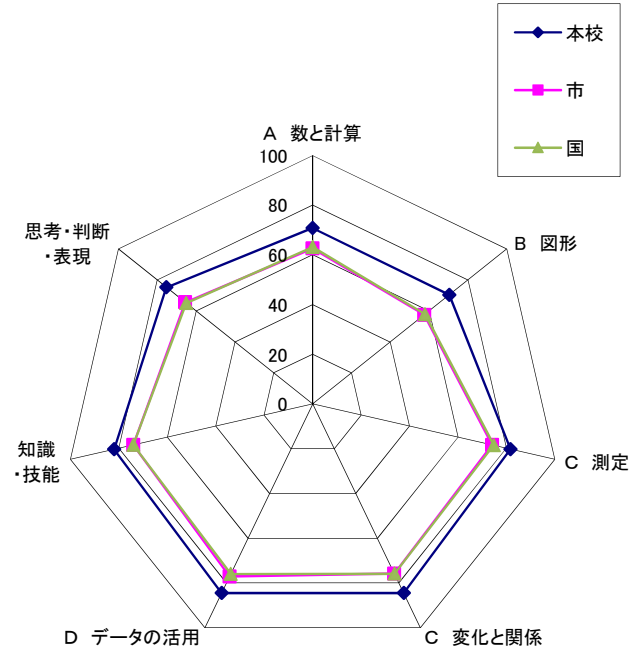
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使い方に関する事項	○平均正答率は、全国の平均を10ポイント以上上回っている。 ○漢字を文の中で正しく使う問題の中には、平均正答率が全国を14ポイント上回っている問題もあり、よくできている。 ○文の中における修飾と被修飾語との関係を捉える問題もよくできている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・既習の漢字を文章の中で使用するよう意識させることで、さらに定着できるようにする。 ・漢字の反復練習だけでなく、熟語や同音異義語などに触れる機会を増やし、幅広く漢字を使えるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ○資料を用いた目的を理解する問題の平均正答率が全国の平均を12ポイント上回っており、よくできている。	・1分間スピーチなど、普段から自分の意見を要約して分かりやすく伝えたり、話し手のスピーチの要点を考えながら聞いたりしようとする態度を育てていく。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、それぞれの立場で考えを伝え合うなどの話し合い活動を充実させていく。
B 書くこと	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ○目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題はよくできている。 ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題の平均正答率は、全国の平均をわずかに下回った。	・文章を書く活動を、日常的に多く取り入れる。 ・構成メモを工夫して書く、事柄を整理して書く、資料を効果的に活用して書くなど、目的に応じた文章表現ができるように指導していく。
C 読むこと	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題がよくできている、平均正答率は、全国の平均を12ポイント上回っている。	・読書活動をさらに推進していく。 ・事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握できるような指導をしていく。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.8	62.6	63.1
	B 図形	70.4	57.5	57.9
	C 測定	81.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	84.5	75.8	75.9
	D データの活用	84.5	77.1	76.0
観点	知識・技能	82.0	74.1	74.1
	思考・判断・表現	75.3	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ○割合の、基準量を1としたときに、比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題がよくできており、平均正答率が全国の平均を13ポイント上回っている。 ●一方、上記と同じ問題の無解答率は、7.0%である。	・ドリルやプリントなどで、計算の練習に繰り返し取り組み、基礎学力を定着させる。 ・様々な問題場面や状況に応じて、必要な数量やその関係を捉えることができるように、図や式に表して考える機会を増やす。
B 図形	○平均正答率は、全国の平均を12ポイント以上上回っている。 ○二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題がよくできており、平均正答率が全国の平均を17ポイント上回っている。	・図形を切ったり貼ったりすることで、図形の様々な性質が分かるようにする。 ・図形の面積の求め方を、筋道立てて考えることができるよう、記述したり、説明したりする場を工夫する。
C 測定	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ○直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ問題では、平均正答率が全国の平均を7ポイント上回っている。また、無解答率が0%である。	・距離や時間について、資料を正確に読み取る必要がある。 ・文を読みながら資料に書き込みをして確かめたり、普段の生活に結び付けて考える活動を取り入れたりする授業を展開する。
C 変化と関係	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ○速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ問題がよくできており、平均正答率が、全国の平均を13ポイント上回っている。	・速さ、道のり、時間の関係と、求める式について再度確認する。 ・問題場面にに応じて、どの数量を求めるのかを考えられるようにする。
D データの活用	○平均正答率は、全国の平均を上回っている。 ○帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題は、平均正答率が、全国の平均を17ポイント上回っている。 ●一方、上記の問題の無解答率は9.9%である。	・無回答がいたということで、問題を把握することが困難だった可能性がある。問題場면을図などで表し、題意を的確にとらえられるように指導していく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問(6)「自分には、よいところがあると思いますか。(本校肯定的回答84.6%)」、質問(13)「学校に行くのは楽しいと思いますか。(本校肯定的回答95.9%)」に対して、いずれも肯定的な回答の平均が、全国の平均を上回っている。これは、昨年度まで行われてきた、国語科の学習を中心としたペアやグループでの学び合い活動や、生活の場面でのたくさんの学級内での自治的活動を通して、児童にとって、学校が心理的安全性の高い場になっており、それが学習の成果にも大きく寄与しているからだと考えられる。

○質問(14)「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。(本校肯定的回答89.2%)」、質問(15)「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。(本校肯定的回答87.9%)」についても、全国の肯定的回答の平均値を大きく上回っている。このことから、仲間との協働的な学びを通して、様々な人の意見に触れ、自分の考えと他者の考えを比べながら考えたり、自分の考えを発言したりする経験を多く積んでできていることが分かる。そして、普段から、意見の多様性を認め、さらに自己の学びを広げていることに繋がっていると考えられる。

○質問(39)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。(本校肯定的回答91.8%)」でも、高い割合で、肯定的な回答をしていることから、一人一人が、主体的に学ぶ意欲をもって、学習に取り組んでいることが分かる。

○質問(26)「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。(本校肯定的回答59.5%)」では、全国の肯定的回答の平均値を20ポイント近く上回っている。校内での、発達段階を考慮した段階的な日常的な活用の効果が表れていると考えられる。

○質問(27)「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。(本校肯定的回答77.0%)」では、全国の肯定的回答の平均値を38ポイントも上回っており、今年度の利用や活用が大きな影響を与えていることが分かる。

●質問(5)「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。(利用1時間以上の本校児童67.9%)」では、全国よりもテレビゲームを1時間以上している割合が、やや高い。質問(4)「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」では約束を守らない・ない児童は少ない。そのため、今後、あらためてテレビゲームやパソコンなどの長時間の利用について、保護者への啓発や授業によって、時間を考えて利用する必要性を伝えていく。

宇都宮市立陽東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・国語科における「書く」活動を含む言語活動の実践	・自分の考えをノートやワークシートに書く活動を日常的に取り入れ、お互いの意見交換に生かすことができるよう、授業を工夫している。	・目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題はよくできていたが、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題の平均正答率は、全国の平均をわずかに下回った。
・家庭学習の習慣化に向けた取り組み	・3～6年生では宿題のほかに自主学習ノートを利用した学習に取り組ませ、定期的に提出するよう指導している。	・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、県の平均よりも10ポイント以上高かった。
・ICT活用による主体的に課題解決できる児童の育成	・Googleツールを活用した協働的な学びの実践や、学習に対して困り感のある児童に対する個別支援。様々な授業における、目的に応じた学習方法や学習環境の工夫。	・「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」に肯定的に回答した児童の割合は、全国の平均よりも38ポイント高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「書く」に関する問題の正答率が低い。 ・算数の記述問題に対する無答率が、やや高い。	・言語活動の充実。 ・個別に対応した既習学習の丁寧な復習。 ・スキルの向上に向けた日常的なICTの活用。	・自分自身で課題を見つけて探究していく学習の設定。 ・朝の学習の時間を生かした個別学習の充実。 ・読書活動の推進。